

<今回>210 回目 2017年5月8(月)15時~18時 601、602号室(途中移動)

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」251P 七支刀の年号の論理 より

<前回>209回目(17-4-21) 出席者6名

資料 17-04-10-1) 前回のまとめ(清水)

-2)こうやの宮説明板設置経過(清水)(2011・11・6)

-3)長谷小路遺跡周辺跡(高山)(2016・6・12)

## A 報告

5月に旅行するこうやの宮(5月18日訪問)の辺春氏に会えるということで、説明板設置の経緯と七支刀の人形発見のいきさつなど話題になった。飲み会は津多屋など満員で、客引きの青年が紹介してくれた横浜西口イタリア料理の若者向きのREONEに入った。最初はがら空きだったが、若い人で7時ころから満員になった。

レノウ6名、14616円(2000・6)、-2616円

B 資料 -2)5月旅行と七支刀のこうやの宮の人形の紹介をした。6年前に伝承の重要性の一つとして会報で紹介したものである。-3)昨年鎌倉由比が浜子供館建設予定地から発見され、2016・6の現地説明会の資料を紹介した。伸展葬の骨が出てきた。西日本の屈葬とは異なる点に注目と説明した。

## C 読書 p244 金印の倭人と銅鐸の東鯤人

1)神聖な祭器 ①武器型 ②楽器型 どちらも倭人とよんでよいかとの質問に対して。漢書地理志の中で倭人以外の民族?はないか調べたら東鯤人だけが見つかった。しかも登場の文体は全く同じ。

2)鯤の文字は南朝劉宋の高句麗の驪が高句麗の特産品の馬偏をつけて表していた。鯤は魚偏を付けて魚が特産品をあらわしている。

3)「是」の文字はティと読めば端の人、東の端に住んでいて魚を特産品としていた。楽浪海中倭人有りは半島部分ではなく、海中は日本列島を示す。

4)孔子は知っていた。倭人の住む場所を。歳時貢献の倭人と東鯤人の存在を。

5)孔子は周の天子への忠節を根本としていることから、春秋、戦国の諸侯が実力を失った天子を軽蔑しているのを嘆いた孔子は東海の島から貢献物(暢草)をもってくるような「道」ある民、倭人の島へ行って教化しようと考えた。

6)志賀島の金印は諸部族の統合の王者に与えられたもの。百余国の統一の王者、筑紫を原点とした武器型祭祀圏(百余国)の王者。

7)鞆氏氏は4辺の夷蛮の献上する音楽を司る官、鞆訳とは夷蛮の音楽の歌詞を翻訳することから「是」の文字は中国の天子に献じた音楽に関係した文字、東鯤人は魚だけでなく、自己独特の音楽を献上したのではないか。神聖な音楽としての銅鐸。

8)倭の行方は①1世紀の中葉(57年)委奴国王から②150年後3世紀には博多湾を首都圏とする卑弥呼(邪馬壹国)場所は須玖一太宰府一基山一朝倉の線と東は香椎宮一宗像神社。西は糸島郡。記紀の分析でわかる。

次回日程 17-5-26(金) 16時~18時 1503号室

6-2(金) 16時から19時 1503号室

6-26(月)16時から18時 1503号室

7-7日(金)16時から19時 1503号室

7-24(金)15時から18時 1503号室